

NPO 法人 ベーシックライフインフォメーション協会 会報 第22号

日本の人も外国の人もみんな集まろう

沖縄を紹介する語り部の語りを聞き
琉球舞踊の鑑賞と沖縄の歌を楽しむ集い

令和4年2月23日(祝)

午前11時 ココネリホール
沖縄の歴史と久米島の戦を体験した語り部の語り

語り部 渡嘉敷 政子

令和4年2月23日(祝)

午後1時30分 ココネリホール
沖縄の歴史から生まれた琉球舞踊と沖縄の歌を鑑賞し沖縄の歌を皆で歌おう。

歌の解説 渡嘉敷 政子

王朝時代

○「かぎやで風節」

踊り手 植竹 シゲ子

○「トーシンドイ」唄三線 朝山 昌子

薩摩藩時代

○「安里屋ユンタ」 他4演目

渡嘉敷 政子 (四つ竹)

渡嘉敷 美月 (唄・三線)

渡嘉敷 歩 (唄・三線)



踊り
クィワディサー節

米国時代

○「ハイサイおじさん」

朝山 昌子(唄・三線)

「囃子」諏訪・比嘉

日本復帰

○「童神」

○「涙そうそう」

○「十九の春」

(都合により変更することがあります)

みんなで三線などに合わせて、沖縄の歌を歌い輪になって踊りましょう。

令和4年2月23日(祝) 午後4時

○映画上映会

「空を拓く〜建築家郭茂林という男〜」



ココネリホール入口

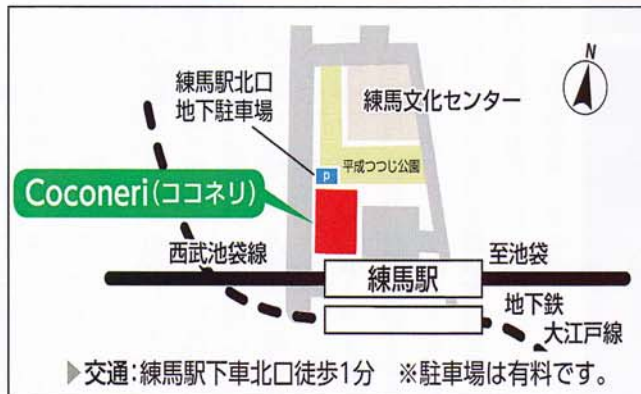


ホール内部



ホールロビー

案内図



オール台湾デー
令和4年3月21日(祝)
午後1時 ココネリホール
近日内容発表します。

今年度すでに実施した行事のあらまし

今年度の上半期はコロナ新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、オール台湾デーを含む多数の参加者を予定する行事は年度末に移行しました。11月までに実施した行事は次の通りです。映画は公募を取りやめ、区報等による広報をやめました。人数も制限しました、予め鑑賞を希望している方を中心に開催しました。

令和3年5月30日午後6時

ココネリ第1研修室

参加者 22名

◎ドキュメンタリー映画「空を拓く」建築家・郭茂林という男」の上映

◎ドキュメンタリー映画「オンライン山から」の上映

令和3年8月28日午後6時

国分寺カフェおきもと

◎ドキュメンタリー映画「空を拓く」建築家・郭茂林という男」の上映

○上映後の懇談会

○談話「阿佐ヶ谷飲み屋街」

話し手 中村 和利

令和3年10月17日午後1時

ココネリ第2研修室

◎ドキュメンタリー映画「空を拓く」の上映

◎アニメーション映画「パッテンライ」の上映

参加者 12名

近現代建築技術史を学ぶ会員参加の『空を拓く』8月28日上映会 感想

要約 矢田 富士子 (会員)

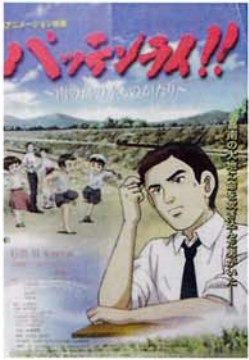
■郭茂林という人物とその業績の幅の広さと深さに驚くとともに、これからの建設業の仕事のあり方について考えるきっかけをいただきました。

■郭茂林氏がビルを見て「大きく訴えなければいけない。細かくしてはいけない」「見せ場をつくってはいけない」という趣旨の発言をされていたのが印象的でした。霞が関ビル以来、コーディネーター・まとめ役としての偉大な功績を積み重ねながらも、その根底には「建築」に対する強い考えの

軸、未来都市へのビジョンがあったことが伺え、感銘を受けました。

■郭茂林氏の生涯、建築家・都市計画家としての考え方が良く表現された作品だと感じました。大規模プロジェクトの先駆けとして、霞が関ビルや新宿副都心をまとめた功績の裏では、明快なビジョンを持ち、組織を巻き込みながらプロジェクトを進めるエンジンとしての役割が印象的

でした。



■郭茂林氏の都市計画家の側面と建築家の側面の両方をとってもよく表現した作品と思いました。超高層建築のデザインは難しい分野と思いますが、郭氏がアジアにおけるこの分野の土台をつくるために尽力されたことがよく分かりました。現代でも彼に学ぶところが多く、未来に繋ぐべき思考があると思いました。

■私は「電子計算機が開発され、超高層建築が可能になった」というような書き方の本を様々見まして、それだけではないだろうとは思っていたのですが、電子計算機を使ったPERT法による工程管理などの話もあり、それ以降の背景を深く追っていませんでした。この映画を見て、自分のよくわかっていなかった世界(僕が本から知ることができる世界)の外側を感じることができました。加えて、ドキュメンタリー映画という表現方法は、学術研究(特に現代史)においては、重要な側面を持っていると改めて思いました。

■郭氏による超高層から都市計画に至る発想は、構想力を持って取り組む建築家としての態度を強く感じました。また、このような前例のない大規模計画を、組織として共有可能な形に実装できていることがKMG関係者の発言等から伝わりました。当事

者がそれぞれ誇りをもって仕事に携わっているのだと感じました。郭氏による構想力と、マネジメントの役割それぞれを実装できていることに感銘を受けると共に、現代に繋いでいくべき功績であると思いました。

■郭茂林は稀代の建築家・都市計画家である。いち早く新時代の超高層建築を起案して、それを霞が関ビルとして実現化できた。また当時出てき始めていた都市計画の新技术をうまく組み合わせ、新宿副都心計画へと統合できたのは類稀なる調整能力と総合力によるものだと思った。自分が西新宿で育った身としては、都市を作った人の顔が見えなくても、そこには未来を志す明快な思想やそれを実現まで、漕ぎつけることのできる多くの調整があったことを改めて窺い知れた。

■今回この映画を通じて、初めて郭茂林という建築家の功績を知りました。郭茂林がいなければ、日本の超高層ビルの実現はもっと遅かったかもしれない。人間的な曖昧さを排したように感じていた高層ビル、郭茂林は人間に拘り築いていたのか、と目を開かれる思いでした。また、台北信義区と新宿副都心の姿が、まるで双子のようで、郭茂林が日台の末長い友好を願いを持たれていたのだと思いました。

郭茂林をはじめ、超一流のBIGネームと会うきっかけをくれた 阿佐ヶ谷文化人村 居酒屋「熊の子」の話

中村和利（会員・理事）

阿佐谷文化人村という場所があったと言われているが、私が話したいのは阿佐谷北口ガード下にあった熊の子と云う一杯飲み屋のことです。中央線沿線には進歩的な考えを持つ人が多く、それらの当時の知識層が集い、酒を飲み交わす場所が存在したのは自明の理で熊の子の創業は、北口の屋台のおでん屋からスタートしたそうです。今から30年以上前の阿佐谷は多少戦後を引きずっていたかのような、粋なお店が点在しておりその頂点にあったのか、熊



阿佐ヶ谷飲み屋街

の子でした。常連のひとりで、店から歩いて1分の所に居を構えておられた藤原審爾先生、娘さんと女優の藤まりこさんなどが頻りに顔を出されて、単に銀座の文壇パーなどは違う実に様々なジャンルの文化人が集う場所でした。大学教授、作家、映画監督、俳優、会社社長、棋士、芸能人など人種は様々でしたが、その共通点はそれぞれ

の完成プロジェクトを担当しており、高山教授の凄さを教えられていたことと、彼女の英会話教室に高山先生の息子さんがクラスメイトであったこと、しかし最も、影響したのは上司が彼らの手がけるプロジェクトの主要メンバーだったことが大きかったと思います。さらには彼女の実家である荻窪の書店が井伏鱒二の荻窪風土記に登場していたという話を聞いたからでした。とにかく豪華な顔ぶれの先生方が思い思いの行動をされるので、夜の阿佐ヶ谷文化人村のクマの子は私にとってかけがえのない場所であったことは間違いありません。「空中権」だとか「大深度地下」などという言葉

この店で最も影響力を持つておられたのが、当時の国土審議会で、東大名誉教授の高山英華氏でありました。小学校と同居する杉並区役所や、蚕糸の森公園、また中杉通りの見事なケヤキ並木などの生みの親と言える大先生です。私はいつもこの店を訪れる時には、元官僚だった上司の同伴者としてこの店を訪れていました。私は30歳を少し超えた頃でした。一度ママさんに「私みたいな若輩者は、不釣り合いですね？」と、言ったところ、「あなたは大人しく皆さんの話をよく聞いているし、酒を飲んでも人格が変わるようなこともないので、中村君は1人で来ても入れてあげるとお墨付きを頂戴することになりました。」

そのような中に本日の主役の郭茂林先生もおられたわけです。基本的に大学は理事も推薦で教授職を得られるのは同じですが、当時の国立大学はまだ外国人が教授になる事が認められていない時代でした。そんな訳で高山先生は愛弟子の郭先生を教授にはしてやれないが、日本最初の超高層のプロジェクトを委ねることにしたのだと、上司から経緯を聞きました。クマの子のママの口癖は「明治生まれが生きている間は頑張る」でした。私がかぎりママの言う明治生まれの海江田四郎先生が逝かれ、高山教授が亡くなられるまではクマの子は営業

私がこの店に興味を持ったのは、当時の彼女が大手広告代理店のSP局で瀬戸大橋

教授が亡くなられるまではクマの子は営業

していたと思います。そんな中で、郭先生は別格で、郭茂林が書いてくれたという割り箸の箸袋に書かれた走り書きをママは大事にしていました。皆さんがあつての私です、みたいな感じの内容だったと聞いていました。その時の私は、「你办事、我放心」という毛沢東が周恩来に言った「君に任せれば、私は安心」を思い出して、やっぱり郭茂林先生も中国人のな人なのかと考えたりもしました。そしてそれから30年近い月日が流れ、郭先生の映画が制作された事を知りました。そして私はついに「箸袋の呪縛」からようやく解放されることとなりました。「僕一人では何もできない。みんなの力をあわせてだけ。」これが超高層の鬼、郭茂林が生前よく口にしていた言葉と聞き、あの達筆な走り書き、クマの子のママがわざわざ大事なものと云って宝物にしていた内容がこれであったと確信したのでした。

阿佐ヶ谷のすぐだったのは、この熊の子のような店が沢山あったことです。北口駅前の居酒屋「北大路」。また骨董品屋が経営する怪しい居酒屋、これらの不思議な空間にまた不思議な文化人たちが集って生み出される熱情のようなものが、阿佐ヶ谷文化人村の正体だったような気がしています。

本日はこの映画を見て頂き、昭和の日本人の気概、そしてそれらの創造に携わった台湾人がいたことを知っていただければ幸いです。

（8月28日の談話を紙上紹介）

臺灣人戦没者慰霊碑で追悼式

日時 令和3年11月3日(祝) 追悼式午後12時30分

場所 東京都西多摩郡奥多摩町川井 台湾人戦没者慰霊碑前

祭司 浄土真宗本願寺派 宗教法人参宝院 松山友真住職

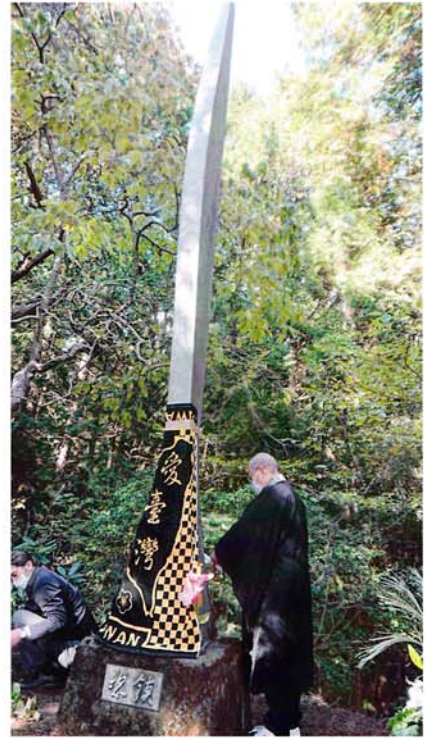
参加者 11人

追悼式に向けては11月3日、車3台に11人が分乗して8時30分協会等を出発して青梅街道をひた走りし、奥多摩町川井の峰谷橋で落ち合った。交通規制があつて車は入れないので現地まで山道約600mを荷物を持ち徒歩で登った。12時ごろ到着し、直ちに清掃に入る、訪れる人が少ないうえに落葉が多く清掃に手間取った。生花を揚げ焼香の準備に取り掛かり万端整った。理事長のあいさつの後法要開始。浄土真宗本願寺派 参宝院 住職 松山 友真師の祭祀により懇ろな読経が行われ、次いで法話が

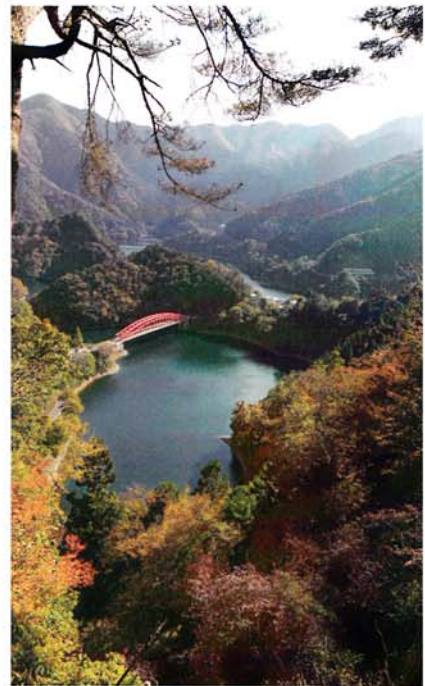
あつた。そのうち一同がそれぞれ焼香し追悼した。

終わって 軽食を和気藹々の中に食した。好天に恵まれ空気は澄みきっていて遠くの、眼下の湖、峰谷橋、集落も手に取るように見ることが出来た。途中近くの麦山の浮橋を眺め、旅の土産にした。2時過ぎ出発帰途に就いた。

参加者各位の多くの協力で費用が低額で済んだ。各自会費の残り合計一万二千九百八十九円は協会の運営に充てるよう寄付をしました。



慰霊塔



奥多摩湖



式が終わって



追悼式参加者一同



ゴミを拾いながら林道を登る

追悼式に参加して

吉川則孝 (会員)

今回、私は初めて台湾人戦没者の追悼式に参加しました。

慰霊碑までの山林を歩きながら、先の大戦で亡くなられた方々の当時の環境や心情について考えながら登山しました。

慰霊碑に着くと慰霊塔もあり、下山には奥多摩湖が眺められ、静かで太陽の暖かさを感じられる安息の地でした。参加した協会の方々と慰霊碑周辺の清掃や紫陽花の植え付けを行いました。

紫陽花の花言葉は沢山あり、花の色によつて意味も変わり、植えた上の養分や環境の違いで華の色が変化していく花です。花言葉の中には「和気あいあい」「家族」「団欒」など、小さい花が集まって咲いているように見えることから家族いつでも仲良くしたい、という花言葉もあります。

私は始めて同協会の行事に参加し、沢山の方々の思いに触れ、今まで知らなかった歴史を学ぶことが出来ました。

紫陽花のように沢山の人々が集まり、仲よく、台湾との交流を深めることが、戦没者への慰霊であると思えました。

紫陽花が咲くころ、また安息の地を訪れたいと思います。



磯田芽久美 (会員)

追悼行事について前々からいろいろお聞きしていたので、ぜひ参加してみたいと思い、行かせていただきました。

当日は朝からお天気も良く、また奥多摩の紅葉もきれいに色づき始めていて、とても素敵な1日でした。

車を停めた所から慰霊碑までの山道は、結構坂がきつく短い距離の割には良い運動になりましたが、参加された皆さんと荷物を分担して持ち、おしゃべりをしながら上がっていくのもとても楽しかったです。

きつと距離にしたらたいして長くはないのですが、背の高い木々の中をゆっくり歩いていくと、段々心が清められ、お亡くなりになった方々にお会いする準備が自然と出来る、そんな時間になりました。

慰霊碑の周りをみんなできれいに整えて、お坊さんのお経が始まると、それまで穏やかだったのに、一気に風が湖から吹き上げてきて、もしかしたらお眠りになっている方々がみんな集まって来て、私達が来たことを喜んでくださっているのかな？ と感じる瞬間でした。

今回参加されたみなさんにはとても仲良くしていただき、また準備してくださったお昼もとても美味しく、本当に特別な経験になりました。

また、先人の皆様のご苦労の上に、今の私達の生活があるのだなということ、改めて深く感じられた行事でした。

本当に参加してみても良かったです。まだ行ったことのない方には、ぜひ来年は参加されてみることをおすすめしたいと思います。

加藤さん、田代さんを始め、行きも帰りも運転してくださった吉川さん、他のみなさんも、有意義なお時間をありがとうございました。

慰 霊 碑 の 行 程 案 内

臺灣人戦没者慰霊碑の現地案内

この慰霊碑は奥多摩の山腹にあり、風光明媚で眼下に奥多摩湖を望めます。この碑は1975年8月15日に越山康氏と有志の方々を立てたものである。当時日本政府は戦時中日本のために戦った台湾出身兵士の労に報いることをしていなかった。それにも拘わらず日本に暖かい心を寄せてくれる台湾に心を打たれた越山氏ら有志が私財を投じて建てたものである。土地は地元の篤志家の提供によって建てられた。先年この地の住民と道中をともしたとき父親がこの工事に携わったそうで大きな石を山腹まで上げるのに骨を折ったことを語ってください。

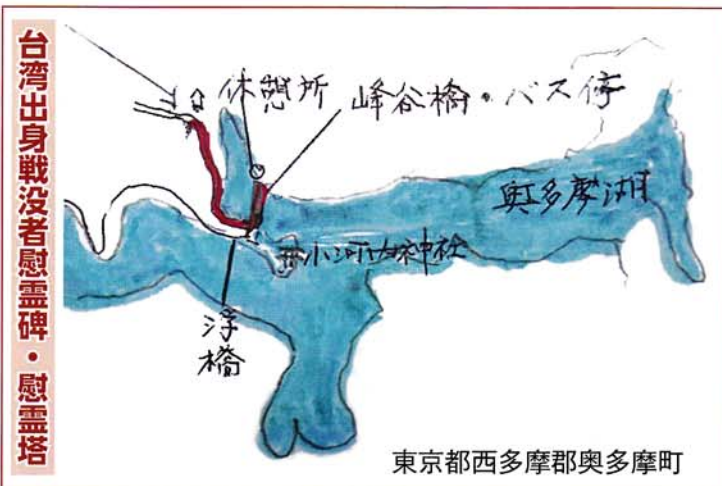
ここ10年来この地を訪れる団体が春と秋に慰霊を行うようになった。しかし訪れる人は少ない。心ある方の参考に行程を案内します。

場所 東京都西多摩郡奥多摩町川井

案内 JR青梅線奥多摩駅下車。駅前の西東京バスで峰谷橋行き(他はそれより奥に行くバス乗車)。約25分で峰谷橋到着下車。停留所そばの休憩所で手を洗いを済ませる。赤色の峰谷橋を渡りトンネル手前をすぐ右折し、民宿馬頭館前の坂道(麦山峰線林道)を登る。登り始めてすぐ右に「火伏の神」として厚く信仰されている愛宕神社にまioriさらに急坂を上る。人家が数軒あるが人気はない。峰谷橋から約30分慰霊碑に到着する。林道はゴロ石、落ち葉が多いので登山靴で登るのが最適。杖は役立つ。春、夏、秋に訪れるのがよい。

問い合わせ先

- 奥多摩町観光案内所 0428-8312152
- 奥多摩町観光産業課 0428-8312112
- 西東京バス氷川営業所 0428-8312126



台湾からの寄稿

邂逅

友愛グループ代表 張文芳

日本語との邂逅

邂逅とは人生の途上において重要な機縁となる出会い、巡り会い、即ち縁です。昭和4年日本人として生まれた私は六歳の時、台湾から家族と共に大阪に移住、小学校から旧制中学4年までの就学は日本語でした。即ち「日本語」との邂逅です。日本語は私の母語と言えます。作文や考え事は全て日本語を基に思考しています。戦後自営以来、日本語の存在はいつも身近にありました。

恩人との邂逅

昭和20年の春、台湾に帰る目的で奈良県天理から横浜に行きましたが、戦局の悪化で帰台不可となり、旅先で路頭に迷いかけた際、「恩人」に邂逅、戦時中、食料事情の極端に困難な時に助けの手を指し伸べて下さったご一家と、現在に至る76年もの長い間交流を続けています。

中国語との邂逅

戦後は台湾に帰郷、人生最初の仕事は中学・高校で書記として就職した当時北京語がほとんど話せず、苦勞しました。1950年年頭、中華民国最初の義務兵役に服

役、軍隊生活で中国語と邂逅、この体験がその後の人生に欠かせない中国語を会得する機会となり、将来、編物教師、台日通訳・翻訳の基礎になるとは、夢にも考えられませんでした。

伴侶との邂逅

自分の「伴侶」になる人との邂逅は73年前、同じ日に同じ職場に彼女は中文タイプピスト、二人共書記として就職しました。2021年結婚67年を迎え、平穏な日々を送っています。

そして彼女の趣味・特技の「編み物」との邂逅。二人にとって人生最大の邂逅でした。

物作りとの邂逅

編物教室経営、編機販売、編物関連のノー・ハウのほとんどは、日本からの移入なので、使用説明、伝達には日本語が不可欠です。その後、ニット事業に発展した際、中学3年に、軍需工場に学徒動員され魚雷などの生産に従事。そこで得た「物作り」ノー・ハウが、編機関連装置の考案特許取得に大いに役立ち、ニットの加工貿易を始め、100%日本向けにニット商品を輸出していました。私は40年間も台湾のニット

業界で活躍しておりました。

コンピューターとの邂逅

31年前、長男が贈ってくれた日本富士通のワープロで「コンピューター」に邂逅。これもその後の世渡りに絶大な術(すべ)となりました。

コンピューターは私の「アシスタント」「翻訳ツール」「印刷工房」「書籍の基礎的編集ツール」「通信の利器」「コミュニケーションのツール」などなど、無限に重宝しています。当時は「特殊技能」でしたが、今では人々の日常茶飯事、台湾では全小学生が利用するまでに至る時節となっております。

友愛グループとの邂逅

このグループに入会したお陰で日本語を見直し研鑽する機会を得ました。今日こうして多くの台湾・日本友人との交流は友愛グループの存在がもたらしてくれた邂逅です。友愛グループは私たちの生涯学習の場でもあり、多くの人々との交流の場でもあります。

以上述べた諸々の邂逅が磁石のように結び合い、私の人生を形成してくれました。「日本語、そして日本との邂逅」とも言えます。これが私の人間形成の要素と言っても過言ではありません。

湾生回想

田代 實範 (会員)

湾生(太平洋戦争終結前の台湾で生まれ育った日本人をいう)は絶滅が目前に迫っている。その一人である私の少年の時の思い出を回想して記します。

台北三中は私の誇り

台北州立第三中学校(現・台湾師範大学付属高級中学)を目指して勉強を始めたのは、旭国民学校(現・台北市東門国民小学)五年生の秋であった。地方都市の中歴から転校してきたばかりの私は、学力が不足していた。そこで毎晩妹たちの寝静まる頃から教科書をひろげ「木山」の参考書を使って懸命に勉強した。

ところが、入学検査は体力テストと身体検査だけで行われたので学力試験に備え努力して張り切っていた私は氣落ちしたのを覚えている。

検査は台北一中で実施された。体力テストは学校周辺一周の徒競走である。雨上がりの後の水溜まりを飛び越え飛び越え懸命に走った。結果は合格、憧れの三中に入れて嬉しかった。

入学式、その感激は今も忘れない。先生生徒一同が講堂に整列し、厳肅莊嚴のうちに式が始まった。制服に身を固め直立不動の姿勢で入学許可の呼名に応えた。国民学校に無いきびきびした動作、ピンと張り詰

めた空気、緊張感が漲り、中学校に入ったという満足感でいっぱいになった。

入学して授業があったかどうか覚えていないが、空襲が激しくなって疎開が始まった。昭和二十年五月、台北州海山郡三峽街横溪へ疎開した。台湾人の民家の一隅を借りての生活は不自由だった。父は南方に派遣されていた。出征家族は頼るべき後ろ盾も無かったので、既に食糧が不足していた。その補いに丘陵の荒地を一面借りて開墾を始めた。

やがて週一度、月曜日の午前中に三峽街の公学校で中学生の疎開地学校が開かれるようになった。確か三中の先生も見えられたが授業は無く、点呼と軍事教練が行われた。整列と行進の繰り返しで主で味気ないものだったが、唯一近くの小高い丘に駆け足で登るのは変化があって気が紛れた。勉強もしないで、こんなことばかりで本当に戦争に勝てるのだろうか、時々不安が脳裏をよぎった。

八月十五日敗戦。その日は忘れられない。日本は敗けたと台湾人が知らせてくれた。戦争が終わった。空襲がなくなった。両肩の荷がスーッと抜けて案山子のように突っ立っていた。

敗戦後厳しい現実を目の当たりにしたのは疎開先から台北に帰ってすぐだった。生活は一変した。父がいないので、母は働きに出て、私は妹三人の面倒をみるため学校どころではなかったが、登校した。授業は三中本校舎で既に再開していた。はじめて

習う英語は新鮮であったが、どんどん進んで追いついていくのは大変だった。

翌二十一年二月上旬、突然の引揚げ命令が出て慌ただしく総督府に集合した。学校の届けも叶わず、台北三中と永久の別れ

となっていました。台北三中には何日通学したであろうか。空襲、疎開、戦後の混乱で恐らく三月足らずだろう。しかし台北三中は私の誇りとす母校である。

災害救助犬「小江」は幸せに暮らしています

協会が寄贈した災害救助犬「小江」は日台交流の目的を果たして、高雄市政府消防局を退役し、民間の愛好家によって幸せに暮らしています。近況を知らせてください。飼い主の便りを紹介します。ご判読ください。

加藤女士敬安

我是紀小姐、謝謝您當初用心良苦、

「小江」の今日までを写真で振り返ってみましょう。

あれから七十六年、記憶は薄れしかも断片的でしかないが、向学心を燃えさせてくれた校舎、脳裏に焼き付いている入学式のすばらしさ、これらは今ではいよいよ美化されて私の心の中に生き続けている。

加藤女士在日本一切安好

紀小姐敬上



「小江」は訓練所に4年通い、救助犬Aの認定テストを受けました。日本を代表する福島県白川市にある訓練施設の景色と模擬現場の様子です。がれきの中の遭難者を探し知らせます。



愛好家のもとで幸せです。



新しい環境に慣れて甘えています。



活扱時の「小江」。

○ベシックライフインフォメーション協会は、日本と台湾の親善友好交流を目的とした活動を行っているNPO法人です。会員の会費と拠出、有志の寄付によって運営する自立したボランティア団体です。

○「基礎生活資訊協會」係本著以日本及台灣親善友好交流為目的、(不定期)舉辦活動之NPO法人協會。同時是一個各項經費支出來自於會員會費及各方捐款的獨立自主營運的志工團體。

「空を拓く」の映画をあなたに提供します

ドキュメンタリー映画「空を拓く」建築家・郭茂林という男」をあなたのご都合がいい日に上映します。お申込み下さい。

上映対象 グループ、家族で参加人数2人以上
5人以内、協会会員の紹介のある方。

上映日時 ご希望を伺い調整して決めます。

上映時間 85分 映写機により上映

上映場所 協会事務所

上映費用 無料 会場までの交通費は参加者負担です。

◆会員募集◆

本会では会員を募集しています。
日本と台湾の友好親善活動をします。無償のボランティアです。意欲と行動力があれば年齢、経歴など問いません。
お問い合わせは事務局まで。

構成員名簿

令和3年12月25日現在

理事長 加藤美智子※	等々力太偉
理事 中村 和利	鳥本 信子
理事 林 政明	鳥羽 展維※
理事 松山 達郎	豊川 玉蘭
監事 郭 純※	仲里 建良
	中村 佳代
	畠中 治憲
	村尾 則広
	林 銀
	一青 妙
	矢田富士子
	吉川 則孝
	匿名
	※は映画製作実行委員会委員
磯田芽久美	
上里 佑子	
エムディモスタ	
フィズルラハマ	
江波戸つき	
小出 正之	
小出 智子	
児玉 治	
須貝 克俊	
田代 實範※	
渡嘉敷政子	

協会事務所へどうぞ

協会の事務所をお訪ねください。歓迎します。
台湾のこと、ボランティア活動のこと、協会への提言、意見交換など気軽に話し合いませんか。電話でお出でになる日時を相談して、いい人間関係を作りましょう。

電話 03(3696)0177

協会

協会ホームページの案内

ホームページ <http://bia.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/bliassoc>

●編集後記●

○今号も会員のほか協会の活動を応援してくださる方から寄稿がありました。心から御礼申し上げます。

○コロナの蔓延がやや下火になったと思ったら新しいオミクロン株の感染拡大の兆しがある中、協会の来春の行事の行方が心配。しかし何もしないで手をこまねているのはあまりにも消極的に過ぎる。開催可能と見込み、1ページのような企画で準備を進めている。みなさんのご支援を期待したい。

○恒例の11月3日の台湾人戦没者慰霊碑前追悼は参加者皆様の活動と法要を司った松山住職の力で懇ろに用ことが出来た。協会主催の行事として平成26年秋から実施し、毎年有志が追悼を続けて来ている。広く紹介したいと考え慰霊碑の行程案内を5ページに掲載した。

○会報第22号をお届けするのは暮れも押し迫った月末になろう。郵送料予算に限りがあるので過去に会員であった方々には毎号差し上げられないのが残念である。ご希望の方にはお届けしますのでご連絡をお願いします。(田代實範)

特定非営利活動法人

ベシックライフインフォメーション協会

会報第22号

発行日 令和三年十二月二十五日

発行所 東京都練馬区石神井町六一二―三

電話 〇三―三九六―〇一七七

発行人 加藤 美智子